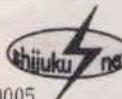


全日本私塾教育ネットワーク
私塾ネット広報
<http://www.shijuku.net>



本部事務局

〒173-0005
東京都板橋区仲宿29-6 ナカジュク内
TEL 03-3963-5572 FAX 03-3963-2529
理事長 山口恭弘

No. 6
平成16年4月25日
発行
私塾ネットワーク広報部
〒116-0001
荒川区町屋4-2-17
TEL 03-3895-5811
FAX 03-3895-5825

私塾ネット 中国研修大会報告

【日 時】平成15年11月9日午後3時～

【会 場】宮島「グランドホテル」

【出席者】北川健治（栄光プレップ）・城忠道（芸城学院）・山口恭宏（山口塾）・山口哲弘（山口塾）・佐藤将紀（広島若竹塾）・岩石忠臣（いくえい塾）・田中達朗（あさひ塾）・上原賢二（上原塾）・田中弘樹（田中學習会）・河浜一也（学習共同体）・平岡文夫（平岡塾）・西川敏博（ノーベル学習館）・西本雅明（西本塾）・湯口兼司（湯口塾）・芳地茂弘（湯口塾）・横山圭（湯口塾）・湯口哲朗（湯口塾）・山田明子（山田塾）・浅野一男（浅野塾）・浅野真弓（浅野塾）・渡辺知裕（浅野塾）・川口順次（東書中央進学塾）・福富耕二（学習塾アカデミー）・小野昭（小野塾）・平井寿章（平井塾）・松田俊治（スタディーシップ学習塾）・近藤誠介（文化の森スクール）・寺嶋兼次（学習院セミナー）・河野昌彦（学習院セミナー）・紀伊良彦（学習院セミナー）・影山昌秀（東進ゼミ）・十亀幸雄（そがめ塾）・佐々木智英（愛真塾）・佐々木貴教（愛真塾）・松前祥旨（愛真塾）・楠山敬志（楠山ゼミナール）・松澤亨（進級スクール）・瀬川政博（進級スクール）・日高慶（進級スクール）・松田昌子（のぞみ学園）・山本早苗（稻伸ゼミナール）・大住明敬（聖学舎）・谷村志厚（A I M学習セミナー）・鈴木正之（いぶき学院）・石川維雪（スタディ・アカデミィ）・田中宏道（L A P I S鎌ヶ谷）・関志朗（関教育学舎）・監物一男（向学館）・碇優（碇塾）・梅津雅美（教育経営研究所）・梶原賢治（朝日学習館）・仲野十和田（ナカジュク）・岩瀬善孝（ナカジュク）・渡辺浩（渡辺塾）・三

井雄介（渡辺塾）・高橋博（広島若竹塾）・梶浦（中央教育研究所）・中川（育伸広島）・木村（塾ジャーナル）・加藤実（総合教育研究会）

・中国エリア（塾関係15、外部5）

・四国エリア（塾関係28名）

・関東エリア（塾関係13、外部2）

注 11月6日判明分。敬称略。

司会 北川健治先生

今日は「戦う研修会」ということで、本音は「塾経営、ソロバン」です。自塾の経営を考える塾長の経営研修です。初めに本日の研修の狙いを私より発表させていただきます。

「私塾ネット中国」は「全国私塾連盟広島支部」時代より、折に触れて「塾を斬る」というシリーズで研修会をして参りました。この企画は一つの塾をターゲットとし、盗めるものは盗んでいこうというものです。研修に参加した塾長が、それぞれの立場でその塾を見て、聞いて、触って、そして、現在の状態を発表させて戴きます。塾運営・塾経営に対して本音で語り合うというしんどい研修会です。一連の作業の中で、自塾の経営を考察し、役立てる。本日も午前中田中弘樹先生、河濱一也先生の塾見学ツアーを受けての研修会となっております。研修テーマは「CROSS FIRE 塾を斬る WE WILL REVIVE.」です。広島の全塾長が企画を携わっての研修会です。それでは開会のファンファーレを平岡塾の平岡文夫先生に御願いしたいと思います。

平岡文夫先生 本日は私塾ネット中国主催の塾長研修会にご参加いただき、誠にありがとうございます。私たちは常日頃から山口先生、城先生のご指導の下、如何に塾を強くす



平成15年(2003)11月9日(日)、午後3時より「私塾ネット中国研修大会」が開催された。広島に集う私塾ネットの各先生方。最前列中央に山口恭弘理事長の姿が見られる。



研修大会で熱弁をふるわれる田中弘樹先生。お若いのに堂々たる話しつぶりには驚嘆させられる。若さというものが勢いというものが感じられた。

るか、色々と話し合いを続けて参りました。少子化の進む中、「勝ち組」・「負け組」の区別がはっきりと分かれてきております。我々なんとか「勝ち組」の一つとして生き残らなければならぬといつも思っております。本日は全国の「勝ち組」の中の一つである「田中学習会」のやり方を十分に学んでいただき、明日の塾運営に役立てていただけたらと思います。現在は非常に厳しい向かい風になっておりますけれども、この向かい風のときにこそ、強い塾が出来るものであると信じております。皆さん、頑張っていきましょう。簡単ではございますが、挨拶とさせて戴きます。ありがとうございました。

北川健治先生 さて、本日のターゲットは元気印の田中学習会です。田中弘樹先生率いる田中学習会です。塾長は塾のエンジンです。田中弘樹先生の人となりと、田中学習会の成長を間近で観察してこられた朝日塾の田中達朗先生に田中弘樹先生と田中学習会のご紹介をじっくり、かつ簡潔によろしく御願いしたいと思います。

田中達朗先生 田中です。1984年、今から18年前に3名の生徒からスタートしました。教室数は現在19です。最初の10年間は3塾です。それ以降どんどん増えていったんです。生徒数は3150名くらいです。職員数は68名。小1から高3までが対象。広島では規模的にはナンバー2ですが、成長率はナンバー1であると思います。この塾の特徴ですが、生徒が塾にいる時間が長いことです。試験の時の朝学習とか日曜の補習とか。講師の先生方が塾にいる時間もとても長くて、よく働く先生が集まっている塾であると思います。週2回、火曜と木曜に一箇所に集まってミーティ

ングをします。授業終了後もどこかの教室では深夜までミーティングがされているようです。労働時間に対して賃金を支払うという主義ですね。借り入れなどは0に近いようです。先生の評価アンケートを実施してまして、それを教室運営に活かされています。教室別売上であるとかを把握してやる気を引き出す工夫をされているようです。先生が生徒を評価することも、学期ごとに観点別評価表を作成して、学習指導されているようです。以上が学習塾の紹介です。

次に人物の紹介です。26歳くらいの時に田中先生と知り合いました。明るく、前向きの性格。対応は極めて丁寧。基本的に負けず嫌い。スポーツマンで腕相撲は生徒には絶対負けないそうです。100m競走もあまり負けないそうです。発想も大変ユニークで、大晦日に特訓をして、12時くらいに生徒が眠くなってきたら、グランドに100円玉、50円玉をばら撒くんです。それを探させて、目を覚ませてまた勉強させる、そんなこともやっていたようです。生徒の幸せと職員の幸せを目指に頑張っておられます。意外と人情家でもあります。人を見る目は鋭く、指導力がある。生徒の心を掴む授業できるんですが、職員全員にもさせている。この指導力は凄いですね。情報収集は早い。シビアですから職員の方々も緊張感をもって仕事をしていると思います。職員から希望や意見を吸い上げて実行しています。塾ももちろん成長してしておりますが、一番成長しているのは彼自身です。22歳くらいから見ておりますが、人物的にも、経営能力的にも成長を続けていると思います。今日はその辺のところをどこまで出していただけるか、興味深いところではあり



メインテーブルの私塾ネット中国の先生方。田中弘樹先生が立って講演されている。右に山口理事長、その右に城先生。田中弘樹先生の左に佐藤将紀先生の姿が見られる。左端に西川敏博先生。



メインテーブルを右サイドから撮影（写真撮影および提供は田中達朗先生）。一番手前に中国エリア代表の北川先生。その向こうに河浜先生。

ます。以上です。

北川先生 田中先生、どうですか？ こそばゆいですか？

田中先生 こんにちは、田中です。今日はよろしく御願いします。そうですね。いいことを言って戴き、ありがとうございました。1点、人を見る目はないんです。「頑張ります」と言われると、「頑張ってください」と言ってしまうんですね。皆入れてしまうんですね。ですから人を見る目はございません。

北川先生 それでは始めます。田中弘樹先生です。基調講演、田中学習会の理念と実践、田中弘樹先生、よろしく御願いします。

田中先生 参考になればいいなと願っております。私自身無計画な人間なもので、子どももも4人、あっ、関係ないか、机の中も汚いでし、今日もとても心配なんですが、よろしく御願いします。

塾を始めたきっかけなんですが、島根県に生まれまして、父は島根県警の警察官で、私が大学に入学したらすぐに父が癌で入院をしたんです。生活費とか学費とかを払わなければいけない。車のない家に育ちましたので、大学に入ったら車を買おうと思っていて、買いました。BMWを買ったんです。結構すごい値段でした。それを全部払うために一番いい時給はなんだろうと考えて、家庭教師とか塾の先生ですね。20歳のときに父が亡くなりまして、母親が島根県から広島に出てきました。姉二人とも広島に嫁いでいましたので、警察官の父親の退職金を頭金にして家を建てて、残りのローンはあなたが払いなさいと。大学4年生のときから家のローンを払って、普通の企業に入る予定だったんですが、広島に帰って塾をやろうと。家庭を守って、仕事

を通して世間様にいくらかの奉仕をする。その場合、どういう仕事をしたかということが、人生に大きく影響すると思ったわけです。それならやりたいこと、やりがいのあることをやろうと。家庭教師とか塾の先生をバイトでやりながら、やりがいを感じていましたので、広島に帰って始めたわけです。折込を入れまして、名前のない塾でしたが、3人ほど生徒が集まってくれて、中1、中2、中3一人ずつですね。最初は苦しいところで、なにしろコピーもありませんでしたので、生徒の問題を自分で手書きして配ってました。コピーが入ったときはですからとても感動しました。

最初はどこの塾にも入れてもらえないような生徒、成績も1・2・3・2・2・3のような生徒です。茶髪の生徒とか。通塾の途中でチンピラのような連中と喧嘩しながら来ます。「先生、助けて」てな調子です。だいぶやりました。生徒を守るために。生徒の友達が塾の前で待っているんです。茶髪とか悪い連中ですね。で、「お前も塾に入らないか」と言いましたら、「田中学習会はヤンキーだから入らない」とか。「お前がヤンキーじゃないか」と。そういう時期がありました。そのイメージを払拭するのには、時間がかかりました。苦しい戦いであったと思ってます。基本的には家庭教師のノリで、そのまま始めたものですから、自宅でもやってますし、一週間のうち3回くらいは生徒が泊まっています。日曜日も生徒が来てました。365日生徒がいました。中間テストとか期末テストのときの朝学習。試験の日は毎朝5時（今は6時）に来てました。毎朝5時に、半年くらい来た生徒もいます。で、だんだんと生徒が集まってきて、地域では



ホワイトボード前で職員の勤務状況を説明される田中弘樹先生。



山口先生、城先生に感謝の言葉を述べられる北川健治先生。

認めてもらえるようになりました。河浜先生にご紹介戴きまして、公立高校の入試速報をお手伝いするようになりました。町の塾からちょっと他とは違う塾かなというようなイメージが付いたのではないかと思っています。93年に5人目の社員が入ってきたんです。彼が妻子持ちだったんですね。それまでは皆独身で、元気良くやっていこうと。それが奥さんに子どもも二人いる社員が入ってきたんですね。これはなんとかしないといけないと。小学校に入る子と幼稚園に入る子がいる。今のうちの状況だと二人とも大学にはやれない。家に行ったらとてもボロいアパートに住んでいるんです。奥さんアパートに行ってるし。これはいけないと。会社としてきちっとやっていこうと。財務的に強いものにしていこうと。それまでは生徒のための人生であると思っていました。生徒を教えてナンボ、生徒が大きくなるのを見て、嬉しいなと。経営者としての自覚は全くなかった。独身の人間ですし、ノリでイケイケ、教えちゃる、教えちゃるという連続でやってましたから。会社が強くなるだけではなくて、その社員にも活躍の場を与えた、他の塾に2塾ほど行かれて、給料も13万くらいしかもらってなくて。それでまず彼が活躍する場を作つてあげて、結果を出して、それなりの報酬を渡そうと。彼のために出した教室が3教室目だったんです。今そこの教室長をやってくれています。今上の子は広島学院に行ってます。うちの塾にタダで来まして、広島学院の高校2年生です。下の子が中学2年生でやっぱりタダでうちの塾に来ています。3人の子が3歳です。一戸建ての家を建てまして、彼は彼なりに結果を出せたかなと。3教室目始めたときからそこの教室長をやってます

から、その地域には彼の教え子がいるわけです。このまま頑張って欲しいと思ってます。それから規模的には少しずつ大きくさせて戴きました。社員の定着率が高いというのがうちの売りです。辞める人がいない。今年の春は退社する人が出ましたが。いい人が集まってくれています。義理と人情で辞めにくく会社?勤務状況はドロ沼でして、年間の休みは一般社員で55日くらいです。教室長になりますと40日を切るくらいです。もっと働いている方も当然いらっしゃるかと。一週間の流れですが、火曜日と金曜日が10時からミーティング。全体の教場報告とか、交換研修、先生方が色々な教室に行って、そこで何を感じたか。その教室の強いところ、弱いところが見えてくるわけです。教室長が教室をしっかりと囲いこんでいるか。しっかりとやっているか、それが浮き彫りになってきます。小学校非受験クラスのテスト、受験クラスのテスト、中学部のテストをやっていますがその報告等。ルーレットで当たった人は前に出て、面談についてパネルディスカッションをしたりとか。基本的には1時半出社なんですが、教室は朝10時から開けるようにしようということになっています。週1回遅出というのがあります、4時出社。一週間の労働時間は平均85時間くらいになりますか。講習中ですが(夏期・冬期・春期)朝9時から夜9時10分までひたすら授業です。昼1時間休憩とか授業間の10分休憩とかはあります。講習中は授業だけやっていればいいので一番楽ですね。学校の定期試験中は朝6時から授業。1週間から10日間くらいですね。その日試験の子しかいませんから、少人数でその中学校の試験範囲しかやりませんので、子どもたちも喜んできます。ほぼ100%の



城先生に引き続いだ、今研修会の全体的講習および全体指導をされる私塾ネット理事長山口恭弘先生。左は田中弘樹先生、右は城忠道先生。



今回の研修会の全体的な講評および全体指導を述べられる芸学院の城忠道先生。「塾を斬る」シリーズの生みの親であり、今回の研修の象徴でもあります。

出席率です。朝学習を通して子どもたちとの触れ合いを強めている。先生方の査定についてですが、1日10分程度で書ける勤務カードを出して戴いています。勤務時間・何を頑張っているのか・生徒に対して実施しているサービス等を書いて戴いて点数化しています。生徒の授業アンケート。手書きの資料をごらんください。質問3～質問7を点数化しています。「静かな授業」。静かにさせて後に盛り上げることが出来る先生はいい。静かにさせることができない教師がいたので最初にあげました。「わかりやすさ」・「熱意が感じられる」・「自分のためになっていますか」・「これからも習いたいですか」といった内容です。

次の頁に査定結果があります。5点満点です。前回と今回の上がり下がり。△印が下がった、無印が上がった、ということです。

アンケートミーティング、夜中にやっていくとか、さきほどお話をありました。質問3～質問7に対して、ボーダーラインを決めまして、その点以下の先生には週2回ほど夜集まってもらっています。今日は静かにさせることができない先生に集まってもらいましょうとか。何をすれば、どうすれば静かにさせることができるのか、それを話し合います。席替え・おしゃべりする子を呼んで「何で静かにしなければいけないのか」、「なんのために塾に来ているのか」という話から始めて、とにかく授業中静かにさせる。

「わかりやすい授業ができない」先生には、1週間分の授業の内容をノートに書いてもらって、板書の内容も含めて。「文字式」だったら4つに分類して、子どもたちにアンケートをする。5点満点で、この単元の理解度はどうですかと。「5」の評価の単元はいいのですが、そうでない単元に関しては、その補助プリ

ントを渡してやってきてもらい、そのプリントを添削するわけです。褒め言葉などを書いて返却します。

今まで私が勝手に点数化していましたが、社員が増えてきたので、半分私、残りの半分は社員が社員を評価する。北川先生を皆さんのが評価する。たとえばですよ。「社内アンケート」というのを始めました。「評価のポイント」と書かれた資料です。10点満点で評価していくわけです。1番～10番、ウエートが違います。質問1が50点満点で2が30点満点。一番最後の方、かなりまずいですよね。私の評価とほとんど変わらない。上から教室長が並びました。教室長以外で一人入っていますが、今年の2学期から新しく教室長になりました。社員さんは他の社員さんを良く見ているなど。賞与でこの査定が生きてきます。売上プラス分（目標売上を超えた分）・退塾率・生徒数であるとともに評価対象です。この教室は経常利益いくらと分かるようにしています。ポイント数という形で。結果的に賞与で差が出てきているということです。少い方は若い方で40万くらいなんですが、多い方は300万超える。広島県知事といい勝負している先生もいらっしゃいます。世間様からの評価を分配しているわけです。

今日は田中学習会の理念と実践ということでしたので、資料の一番最初のところにうちの理念を書かせて戴いております。毎年春に人数確認をしております。新年度生徒を何人集めましょうということで目標を立ててやっておりますが、そのときに配布しているものです。企業理念一社会に奉仕する、どこの企業さんも同じようなものであると。「社会の一員としての責任を意識し、生徒の学習指導を柱とした価値あるサービスを提供し、生徒の力



北川先生が感謝の言葉を述べられている間起立して聞き入る山口理事長（左）と城先生。



朝4時に起床、車と飛行機を乗り継いで12時間かけて青森むつ市からかけつけ、最後の閉会の言葉を述べられる関志朗先生。

を引き出し、伸ばし、社会に貢献できる人材の育成を目指す。子供達の成長を通して消費者である保護者に満足して頂く。加えて納税の義務を十分果たす中でも社会に奉仕していく」ということです。塾として基本的なところであると思います。事務の社員は私の母しかいないのです。事務は各教場の先生が責任をもってやってくれています。税務調査が入ってから法人にして、税務関係もきちんとやっております。いつもは連絡して来られるんですが、3年前かな、いきなり来られました。3人本部に来られまして、1人はこちらの教室、もう1人はあちらの教室と怪しいと思って来られたんでしょうね。28000円ほど印紙代を払わされましたが、いきなり来てこの程度で済んだものですから、税務署の方に褒められました。税金はしっかり払っていこうと。

教育理念なんですが、「学習を通して子供達の意志を鍛え、精神力を培い、問題解決能力を高め、将来社会に貢献できる人間力ある人材の育成を目指す」ということです。うちの先生、体育会系が多いんです。勉強が少々出来たからと思っている人はあまりいません。高校時代に野球で鍛えられたからとか、吹奏学部で長い時間練習させられたからとか、そんな中で鍛えられて今があると思っている先生が多い。うちの学習を通して子どもたちを鍛えようではないかというのが教育理念です。受験に対して子どもたちがどれだけ力を付けたか、次のステージで子どもたちが活躍出来るようにと思っているのが教育理念です。しかし、今自分の中では変わりつつあります。受験勉強で子どもたちがこれだけ鍛えられた、それが将来役立つではないかと思っているのが、この教育理念です。ただここ何年か自分が教えた生徒が中学校を出て亡くなるというこ

とが起きたんです。一人は癌で、中学校3年生の2学期の期末テストの朝学習にも来ました。期末テストもやり終えて、病院に行くと、病院に行ったらそのまま退院出来ずに亡くなってしまいました。去年は第一希望の高校に行った子が、電車の事故で亡くなりました。そう考えると、受験勉強で一生懸命頑張ったことが、将来役立つじゃないかと教えてきたことが、どうなのかと。塾に来ているときこそが、成長する場であると。自己成長するために生まれてきたと言われております。我々は塾の学習指導を通して、そのときこそ子どもたちが人間として成長できるように導いていかなければいけない。将来のない子もいるわけです。そのときそのときに子どもたちが成長出来る場を与えようというのが今の教育理念です。変わりつつあります。「経営理念」です。こここの会社の経営者でなくなったら、次の経営者の方が新しい経営理念を作られるということなんですが、私が経営している間はこの経営理念でいきます。読ませて戴きます。「ご縁あってこの会社に集まって頂いた皆さんの物心両面の幸福を追求する」ということです。最初は生徒のための人生であると。家庭を持っている方が入社したとき、社員さんのための人生などと気付き始めた。私はですから「社員第一」です。社員の皆さんのが「生徒第一」の業務をしてもらつたらいいと思っています。「物（主に給与）」、「心」（やりがい、良心に反していないか、ご自身の成長、家族含めて将来の安心など）の豊かさをご自身のために、また他の社員のために額に汗した精一杯の業務により正々堂々と追求していく。

「公明正大に利潤を追求していきましょう」のところをご覧ください。右の頁です。・「私



学習共同体の河浜一也先生の塾舎にて見学に集まった私塾ネットの先生方。



河浜一也先生の塾舎の職員室。各先生方はブースで区切られていて、手前に出入口。開放空間の設計になっている。

達が生活しているこの資本主義社会において、「結果」(収益性、売上、生徒数)は、私達が世間様に御提供したサービスや付加価値に対する正当な評価として表れます。そしてその結果はいつも正直で公平で厳肅なものであります。結果に関して理由はないと。我々がやったこと、それがそのまま結果として出てくるということであると思います。よりよい結果を出すために私達は考え、改善し、努力し、工夫し、継続し、辛抱し、自らを成長させていくのです。もちろん皆さんが良心に従った業務により利潤は追求されなければなりません。ですから500円のものを5000円で売って会社で利益を得るというのは、会社の経常利益は出るでしょうが、社員の良心に従ったものではありませんので、これは不利益と捉えます。そしてその利潤により、給与・安心・安定・自信・誇り・責任遂行感・自己成長・自己実現の場(次なる挑戦のステージ、ステップアップの場、教室長として自分が信じる教育・運営を展開する場)を得ることができます。塾の場合、競合ということがあります、ライバルは頂いている月謝であると考えています。2万円の月謝を頂いているとするなら、2万以上であると感じて頂けるようなサービスが出来ているかどうかが勝負になると思ってます。気になるのは生徒や保護者の皆様の満足度がどうなのかということ、そのことが気になります。

「目標と人事評価」です。「組織の一員として、和を大切にしてください」とあります。組織では「和」が一番大切であると考えています。「業務は明るく、積極的、素直、熱心、前向き」、小学校の教室に張ってあるような言葉ですが、大切なことであると思っています。やるべきことをちゃんとやるということ、難しいんですねこれが。社員の皆さんには強くお

願いしています。「生徒数は夏期3500人」いきませんでした。3454人でした。11月は3200人を目指しています。昨日で3155人でした。人数確認の日までもう一週間ありますので、なんとか。冬期も3500人目標と。

「評価」ですが、「業績評価」は各教場の経常利益です。生徒数・売上・退塾率・生徒アンケート。社内評価で一人の先生だけ、評価出来ませんということでお話を並べた先生がいました。特に優れた人には7とか8とか付けているんですが、ほとんど5。40人くらい評価したんですが、その中で一人だけです。慎重な性格なんで、それを教室運営に活かしてください。でも次の評価は付けてくれるのではないかと思っています。

「長期的な目標」、一番下に書いてあります。「皆さんおひとりおひとりのお力で、この1年も着実に会社としての力をつけることができ、無事新学年を迎えることが出来ました。業界全体としては厳しいとされていますが、チャンスもたくさんあると考えます。昨年お伝えしました通り、長期目標は今後とも堅実に成長し、20代~50代がバランス良い形で雇用できることを目指します。これを今の目標にしています。一昨年までは達郎先生に言わされました借入をなくして、今いる社員がある日突然辞表出された時に、退職金をその場でちゃんと現金で渡せるように、そういう形にするのが目標でした。去年・一昨年達成できました。今の目標はバランスのよい雇用です。毎年平均年令が上がって、給料も上がっていって、全体としては人件費がきつくなる。少しずつ塾を大きくすることによって、ちょっとずつ若い方を入れていく。年上の方が51歳、あと10年経つと停年退職者がいるということです。45歳くらいの方が5人ほどおりますか



日曜だというのに塾に来て一所懸命勉強に励む生徒たち。（河浜一也先生塾舎）



授業風景。（河浜一也先生塾舎）

ら、その辺が無事停年退職なるように、毎年2教場ぐらい出しながら成長していきたいなと。

ボスのパクリのけしごむですが、各教場、月の生徒数の目標を決めています。年間売上の目標も決めていますが、毎月毎月目標を立てています。それを達成しているかどうかを示している表が次です。その次が「個人売上表」。自分がいくらの月謝を売り上げているのか、自分ではっきりしてもらおうと。個人ランキングもやってます。二箇月に1回表彰します。金・銀・銅メダルと。金が5枚集まつたらどうするとかいうことも言ってます。その後は生徒数推移です。各教場、そろそろ頭打ちのところが出ています。何年に始まっているかをみれば、どこの教場であるか分かります。今年の春に東進を始めまして、高校部を集めたり、個別を集めたりしたので、去年と比較してガクンと減っている教室がありますが、それは東進の関係です。上から5番目の教室ですが、2003年4月115人、2002年97人。この春教室長を変えました。3月からなんですが、変えたことによって低迷していた教室なんですが115人になりました。去年の秋103人ですが、今185人になっています。教室長変えるだけでこれだけ変わります。塾の看板はありますが、教室長次第なんだなと思います。100人ちょっとの教室だったんですが、もう185人。今月中に200人になると思います。一番最後の資料なんですが、縮小コピーしていますが、新聞の広告です。広島は中国新聞を見ている方が多いのですが、去年始めて一面広告を出させてもらいました。400万かかるんですが、去年の春は新学習指導要領がどうのとか、削除がどうのとか、皆さんの意識がありましたので書かし

て戴きました。塾としてはこういう考え方でやらして戴いていますと世間様に説明させて戴いたものです。その下には色々なコースが書かれていますが、中途半端なものです。観点別評価表、これは小学生の非受験クラスに対して、実施しています。学科でこの分野は出来る出来ないで点数を出すことも出来るんですが、子どもたちをちゃんと見てみたいという思いがありまして、挨拶が出来るかとか、筆箱の中はきちんとしているのかとか、生活面から子どもたちを見るようにして、そういうことが出来るようになったことを褒めてやろうということでおあります。これは子どもにも、保護者の方々にも受けがいいです。

「T's Concept」ですが、これは塾のイベント、どんなことをやっているかということを紹介しております。うちの先生方がこれをやりましょう、あれをやりましょうと言ってくれますので、私は「やりましょう」しか言わないんです。

「感動文集」（講師編 記憶に残るこんな生徒がいました）、これはそのままです。

「ハンドブック」、これは以前佐賀県で全塾連の勉強会がありまして、93年かな？そのときに熊本県の先生がノートを生徒に書かして、キャッチボールみたいにしているとお聞きしたので、私のところでも始めました。各教室の運営によって全然違います。子どもたちがきちんと付けている場合は財産になります。出来てないとただの荷物になります。これが出来ている出来てないはその教室の生徒数に相当影響があります。子どもたちの管理がきちんと出来ているかどうかのバロメーターになると思います。子どもたちには躊躇という部分が大事であると思います。厳しく対応し



田中學習会塾舎。河浜一也先生塾舎と同じく、日曜日にも生徒が集まって勉強していた。



田中學習会塾舎前に集まつた私塾ネットの先生方。谷村志厚私塾ネット関東代表の姿が見られる。ベージュ色のブレザーワークは穀優先生。

ないといけないと思うんです。

厳しい教室長のところはきちつと出来ています。子どもたちに厳しいということはまず自分に厳しいということです。自分に甘い先生は生徒にもきつく出来ない。ダラダラした教室になってしまふ。自分に甘く、生徒に厳しかったら教室は崩壊します。生徒との人間関係は作れませんので。私自信、社員の誰よりも動いています。何倍も働いてやろうという意気込みでやってきました。

各学校にお邪魔して、受験情報を集めたものもあります。今年の春に流したCMを流させてもらいます。30秒もので、放映料も高かったんですが、今出演した先生は二人とも私の教え子です。10名ほどの塾の卒業生が入社してくれています。分かっていますからやりやすいんですけど、保護者の方の顔が見えています。人間としても成長させなければいけない。そういう点でいうとプレッシャーです。勤務状況を改善したい。父親参観日に行けるような状況にしたい。

腕相撲の話ですが、私が35のときまでやってきました。腕相撲とかけっこで私に勝つたら授業料タダと。今まで負けたことがありません。生活かかっていますから。以上です。

休憩後、ティスカッションに入る。大将は広島若竹塾の佐藤将紀先生。

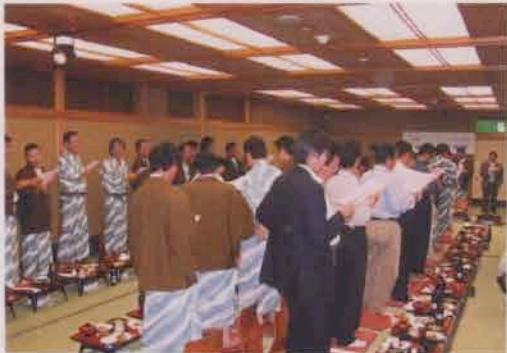
佐藤先生 私は100 km離れた広島県の東の方におりますので、田中學習会が凄いなとか、元気がいいなということは聞こえてくるんですが、今日お話しをお聞きしてこんなに凄いとは驚いています。私の知っているデータでは、確かに生徒数も毎年増え、売上も1億単位で増えている、この5月に確か2700人くらい

であると聞いていたんですが、さきほどのお話、3150名という数字、本当にもうびっくりして、その秘訣を私だけではなく、皆さん知つて帰りたいと思われているかと思うのですが、どうしても1点気になるのが、先生方の働きぶりというのも、年間55日、室長は40日切るくらいの休日であるとか、1週間が85時間、講習は9時から9時という、そんなんいいのかなと?田中先生の教祖としてのカリスマがあるのではないかなど。お金だけでそんなに先生方が動くのであろうかと。体育会系のノリ、若さで5年くらいは続くだろうと思っていましたが、まあそこらがピークかなと思っていましたが、10年・15年と続いている。先生というのはお金だけではない、こういうもので動くのだというものがいれば、お聞きしたい。給与体系の査定で下がることもあるのか、年令が上がれば自動的にある程度上がる分があるのかどうか。さきほど教室長を変えたらわったというお話がありましたが、変えられた教室長の運命は如何に?この春変化があったとかという、その辺りをお聞きしたい。

田中先生 うちの社員はお金で動いているとは思っていません。年間で80日休みがあるんです。日曜日も補習で出ています。いつもの先生が日曜日も出てきている。そこに一体感が生まれると考えてはいますが、決して強制で日曜出しているわけではありません。心の底からもう少し教えたいという気持ちでやっていると思っています。先生がやってくれるからそれに対してこちらが報酬を出しているという図式です。こちらが報酬だすから先生がやるという図式ではありません。義理・人情・筋を大切にしています。休日出勤手当が貰える



懇親会でくつろぐ私塾ネット関東の先生方。左から仲野十和田事務局長、梶原賢治先生、渡辺浩先生、石川維雪先生。



懇親会会場で「私塾の魂、今ここに」を熱唱する私塾ネットの先生方。

から休日出勤しようなんて思っている人はまずいないと思っています。査定は250時間くらいかけてやっています。休日手当てというのも後から付けたものです。5年くらい前かな?教室長のお話ですね。一番教室運営の出来ている教室に移ってもらいました。2年間経ったら教室長に返り咲くというつもりでやってくださいと言ってあります。今日行った教室にいたんですが。2年間修行ですね。今年の春退社した方は分母が大きくなつたというのもあるんですが、今までには年に一人、たとえば高校の先生になるからとか、女性の場合は結婚とか、旦那さんの転勤とか。今年の春は4名退社したんです。2人は本来ならいてくれたかなと。フランチャイズの塾で自分でやっていきたいという方が1名。春に移動を伝えたら、移動先の教室長を理解出来ないということで、辞められました。もう一人の方、45歳位の年令の方だったのですが、他の方と足並が揃わない仕事をしていましたので、致し方ないかなと。

広報部より 頁数の関係で、田中浩樹先生の講演を中心にまとめました。私の父が昭和25年に塾始めたときには、自然発的に塾が生まれた。頼まれて近所の子を教えていた。その子たちが開成中に入った。その評判を聞きつけてまた何人かの子どもたちが入ってきた。そのようにしてだんだんと増えてきた。6畳一間の部屋で正座して勉強していた。やがて板の間になり、机と椅子が入り。チラシなどの宣伝活動などは全く無縁の世界であった。いつの間に今のような「教育」を「商売」として扱うようになってきたのであろうか?今の時代、「教育」で金を儲けて悪いなどという人はいまい。私の父も始めは「教育」で金を儲け

てはいけない、と言っていた。しかし、10人、20人と増えてくるにしたがって少し違ってきたように思う。合格実績を誇るようになり、宣伝も少しあはするようになった。お金も儲けていたように思う。

何のために子どもたちを教えているのだろうか?学校の成績を上げるためか?入試を突破するだけの力をつけさせるためか?収入は結果に過ぎない。何のために。それをじっくり考えたい。

田中先生はすさまじい。若いからか?虚弱体質の私とは正反対だ。小学校のとき、喘息で体育は全休。中高も体育は大嫌い。昭和58年体重は42kg、ウエスト56cm。ガリガリであった。今は多少人並みに近づいたが?だからとても真似はできない。

だが、「子どものため」という心は同じだ。「子どもの幸福」のために頑張る。学ぶべきことはしっかり学ばせたい。言葉遣いや礼儀なども教えたい。私流ではあるが。

平成16年4月3日午前1時35分 加藤 実



私塾ネット関東会員塾訪問研修 エコール・ヴォアラの教育 「会員制学習塾の秘密を探る」

の う こ
塾長 菅谷友豊香先生

【日 時】平成16年2月1日午後1時より

【場 所】宇都宮『エコール・ヴォアラ』

菅谷友豊香先生塾舎

司会 菅谷幸子

開会の辞 山口恭弘理事長

今日の研修会は今年の1年、皆様の塾でお役に立つ内容であればといいなと思っています。広島大学新聞を新幹線の中で読んでいたのですが、教育の質の向上が重要であると書いてあるんですね。職員の質の向上ということにもなるわけです。今まで通りにやっているという時代ではないと思います。開拓者の精神でやっていかなければいけない。1日の積み重ねが重要であるとも。生徒募集時にチラシを蒔くから生徒が集まるのではなく、3月になつたらあの塾に行こうという、そういう種をきっちり植えつけておかないといけないんです。こういう集まりの中で、知恵を出し合って、いい方向を見つけていかなければいけないと思います。私の代わりに授業をやってくれる先生が見つかりましたので、やってきました。大変迷っておりました。広島からここに来たいと思ったわけです。菅谷先生の教室を一度は見ておきたいなという思いがありましたから。これから仕事に役立てたいなという気持ちですね。今中3の個人指導をしているのですが、ちょっと困っているんです。それがもう一つの理由です。皆さんとお会いして、元気になってまた頑張りたいと。一人一人の方がしっかりとやることによって、日本の教育が良くなり、塾の存在が認められるのではないかなと思っています。業界全体の向上にも繋がります。今年1年頑張って、来年良き年になるようしましょう。今日1日よろしくお願いします。

ご挨拶 谷村志厚関東代表

今日2月1日というと、首都圏では私立中の受験日。こんなときに研修会をやるのかという批判もありました。会員外の方もたくさん参加され、ありがたいなと思っております。およそ50名参加ということです。千葉県は3分の1は私立高の推薦を含めて終わっております。あさって公立高の推薦入試があります。ここで半分終了します。千葉県に関してはほぼ終わったかなという雰囲気です。3月から新学期ということで、募集の体制に入っていますが、如何でしょうか?教育改革が塾にとって順風であると言われておりますが、我々中小塾はその風を受け取っていないなど。大手の進学塾の方に風が向いている。塾の代表者を変えるしかないと、思っている次第です。しかしながら私も生活があるものですから、頭を変えられません。ですから頭の中身を変えるつもりで今日の研修会にきました。我々の会員の塾の中でも大変ユニークな塾を経営しております。色々な視点をお持ちであると思います。そういうところから学べるものがあると思います。これから3時間ですが勉強させて戴きたいと思います。

ご挨拶 佐藤勇治NPO全国教育ボランティアの会事務局長

実は今日4時から調布の方で会合がありまして、2時頃にはここを出たいということで、社団法人の学力コンクールとNPOと教育ネット要覧については特別な計らいで話をしてもいいということで、時間を戴きました。私塾ネットの渉外部長をしております。同時に教育ネット要覧の編集もしております。全国の学習塾の最大の統一名簿です。この私塾ネットは元PTF、元日私会、元全塾連、3つの団体が母体となって誕生したわけですが、平成4年から十年かけて会員名簿を集めてきたものを、平成13年に全国に呼びかけて、最初34団体1400塾が入っていた名簿を作ったのが



平成16年2月1日（日）
全日本私塾教育ネットワーク（私塾ネット）関東研修会で
ご挨拶される山口恭弘理事長。



ご挨拶される私塾ネット関東代表谷村志厚先生。

始まりです。昨年は63団体2400塾、大手塾・中小塾ほとんどが入っております。教室数にすると約35000 教室入っている名簿です。この名簿1冊あると学習塾の横の連絡はほとんど出来ると思っています。今日2冊持ってきましたので、よろしかったらどうぞ。私塾ネットに入って戴ければ以後も最新の名簿が配布されますので、お考え戴きたいと。これは私塾ネット専門部長としてのお願いです。

社団法人の「全国学力コンクール」について話をさせて戴きます。元全塾連にて昭和56年から統一テストを実施しております。その担当をしておりました関係で、社団法人から「学力コンクール」を担当するようにと言われまして、一昨年より副委員長ということでおやさせて戴いております。今回で3回目になります。昨年は約9000名参加でした。小学生は公立進学用小4～小6算数と国語、中学受験用は小4と小5、中学生用は中1と中2国数英。中2については理社も含めた5教科。価格は750円。学年末の実力テスト、入塾テストとしてお使いになれます。実施は3/15から、結果締切が3月末。ご検討ください。NPO全国教育ボランティアの会のご案内です。理事長は田中敏勝先生です。特徴は文部科学省の後援を戴いて、「子育て資金」「子ども夢基金」という助成金をもらって、全国各地で事業展開していることです。15年度は調布・松本・四国三野町・さいたま市の4箇所で文部科学省と各地区の教育委員会の後援を戴いて実施致しました。昨年12月に実施致しました日本女子大での「生きいきワクワク親子の集い」、読売新聞でご案内などもあり、1日で200人くらいのお問い合わせがありました。不本意ながら半分くらいの方をお断りして、約250名で実施いたしましたが、これは全国教育ボランティアの会の活動が理解されて、要請を

受けて実施されたものの一つです。輪が広がっているということです。理科実験とか理科工作等にご興味おありの方はぜひお問い合わせください。貴重な時間をありがとうございました。

司会 それでは研修会を開催したいと思います。第1部では『エコール・ヴォアラ』での教育「会員制学習塾の秘密を探る」と題して塾長の菅谷友豊香先生よりお話を戴きます。第2部では碇の数学講座「高校受験数学 学習指導要領外の数学」と題しまして、碇優先生よりお話を戴きます。第3部では「新年度塾生募集作戦」を有限会社「プランニングサービス」代表の大槻賢司先生よりお話を戴きます。それでは早速第1部から始めたいと思います。菅谷先生、お願ひ致します。





社団法人の「学力コンクール」とNPO全国教育ボランティアの会について説明される私塾ネット連絡外部長佐藤勇治先生。



平成16年2月1日（日）
第6回私塾ネット関東研修会が栃木県宇都宮市にあるエコール・ヴォアラ（菅谷友豊香塾長）で開催されました。第一部で基調講演をされる菅谷友豊香先生。

第1部 エコール・ヴォアラの教育 「会員制学習塾」の秘密を探る

塾長 菅谷友豊香先生

本日、2月1日は首都圏受験真っ最中、皆様にはご迷惑をおかけしたのではないかと恐縮しております。さて確かに、昨年の11月後半だったかと思いますが、私塾ネット研修部の鈴木正之先生より電話がありました。「体調どう?」というのが第一声でした。昨年1年間体調を崩しまして、職員に授業をさせておりましたので。実は、私と鈴木先生とは小学校からの幼馴染です。私塾ネットも鈴木先生のご紹介があつてのことです。よくよく話を聞いていきますと当「エコール・ヴォアラ」で研修会を開催したいということでした。

実は宇都宮市では、この辺一帯の再開発事業が決まり、いつまでこの塾舎で続けられるかどうか判らない状況にあります。

私たちの学習塾は「会員制学習塾」ということで、非常に特色のある学習塾ですので、この立地条件無くしては成り立ちません。塾舎を移転するよりはそのまま閉鎖すべきかなとも思っていたところですが、そうなれば鈴木先生から依頼された研修会を「後でね」という訳にはいかなくなります。皆様に恩返しをするつもりで今日の会をお引受けすることにいたしました。

研修会で皆様にお話をする上で、改めてどんな理念を掲げてこの仕事を始めたのだろうかと振り返りました。そして当塾のHPを見て戴ければ、一番おわかり戴けるのではないかと、プリントを用意させて戴きました。A4版縮小のものです。

1頁です。「信頼できる教育のパートナー」。まず一番に生徒・保護者から信頼して戴ける学習塾、教育のパートナーでありたいと思っています。「エコール・ヴォアラは認め、確かめ、共に育む「笑顔の教育」を教育理念とした、人間としての人格教育を重視した完全1:1個人指導専門の会員制学習塾です」とありますがここに私の理念のすべてが含まれております。

子どもたちを認め、互いに確かめ、一緒に育み合う。子どもだからと言って、上から押さえつけるのではなく、子どもと一緒に悩み、考え、そして自分自身も成長出来る、そんな学習塾にしたいと。そして「笑顔の教育」という理念があります。これは皆様よく勘違いされるのですが、先生がニコニコと笑って、子どもと接するということですか?と。とんでもありません。これは私が生徒から戴きたい笑顔です。子どもたちからニコッと「先生、判かった」というその声が聞きた。「先生、点数取れたよ」というその笑顔が見たい。「先生、今日学校でね、こんなことがあった、あんなことがあった」そういう子どもたちの笑顔をこの両手で、この腕で、しっかり抱きしめたい。そういう思いのいっぱい詰まった「笑顔の教育」です。

実際、私たちの教室に来て戴くと、良くわかるかと思うのですが、子どもたちは実にさつそうと教室にやってきます。何年か前の「月刊私塾界」にも載せて戴いたのですが、ここに10年前の私の理念がありますので併せて見てください。ここにも書かれているように子どもたちはこの教室に来るのが楽しい。あるいは先生と語るのが嬉しい。そういう子どもたちで一杯です。入ってきておわかりになって戴



熱演を振るわれるエコール・ヴォアラ塾長 菅谷友豊先生。



第二部「基礎の数学講座」で高校受験数学「学習指導要領外の数学」を講演される碇塾 塾長 碇 優先生。

けたかと思いますが、子どもたちはげた箱に行くのに先生の前を通らなければ行けないようになっています。端の入口は教師専用で、子どもたちは全員自動ドアから入ってきます。先生方は何を見るか。まず、今日の子どもたちの笑顔を見ます。今日の子どもたちの苦しみを見ます。何かあったとしても「どうしたの?」という言葉が掛けられたり、「あらっ、良いことがあったのね? 何?」という声が掛けられたり。その前に飛び込んで、「先生、あのね」と、入ってくる子どもたちがいます。そこからげた箱へはたった5歩しかありませんが、なんとその前で10分も20分も話していく子がいます。「授業が始まっちゃうよ」と声をかけても、「でも今日学校でこういうことがあったんだよ」と子供たちの話は止まりません。それらを全部聞いてあげるのが、私達塾舎の教師の心です。今「聞いてあげるのが」と言いましたけれども、本当は「聞かせてもらうのが」という方が正しいのかもしれません。保護者の皆様がよく言われることですが、「先生、どうしてそんなことまで知つてらっしゃるんですか?」と。「うちの子、そうなんですか?」等という風にも聞かれます。御両親が全く知らない、内緒の話も、秘密のこととも、隠している学校のテストも、私達は全部把握しています。この「笑顔の教育」の中に、生徒および保護者も含めて、私達教師は一つの家族でありたい、という思いが含まれています。ですから子供達はお母さまに言えないことをも言ってくれます。先生たちは、秘密を一杯抱えてしまい、ときどき苦しいこともあるのではないかとも思います。「先生にだけよ」ということで、聞いている話も一杯あるのではないかと。それらは私にも少しずつ小出しに話してくれるのです。私はおおよそのところは全て把握しております。そういう中で子どもたちが勉強を

していく。つまり単なる学習塾ではありません。

ファイルに入っています「会員制学習塾エコール・ヴォアラ 会員保護者の職業」をご覧ください。過去10年間のデータです。これを見て戴きますと良くわかりますが、非常にハイレベルの方のお子様をお預かりしております。「じやあ、ハイレベルって一体何なの?」ということになりますが、これは必ずしも職業で計れるものではないかもしれません。でも、やはり教育熱の高い方たちのお子さまをお預かりしていることには違いはありません。ですので子どもたちは、教師の人格をも非常にすばやく見抜きます。「ああ、この子たちはやはり違うな」と逆に驚かされることが何度もあります。本当に一人一人、御両親が教育熱の高い方だけをお預かりしています。最初からそうだったのか?と言いますと、決してそうではありません。「会員制」とは何ぞやということになるのですが、私のいう「会員制」というのは、「完全な紹介によるものだけ」ということです。ですので、チラシやDM等は一切出してはおりません。会員への情報や案内・資料は出しておりますが。なぜそのような形を取ったのか、ということですが、皆様もご経験がおありのことだと思いますが、会員制でなければ、様々な方がお越しになるということです。会員制を打ち出すことによって、皆様がこの学舎を選ぶように、私も選ばせて戴くことができます。どんな方に来て戴くか、今の生徒に迷惑がかからないか、教育がしやすいか等々、色々選ぶポイントがありますけれども、そういった部分を入れて、ご両親と本人と共に面接をさせて戴きます。そうすることで何が違うかと言いますと、挨拶等の躊躇がきちんと出来ているお子さんをお預かりすることができるのです。つまり余計なことに手がかか



第三部「新年度塾生募集作戦」について講演される（有）プランニング・サービス代表 大槻賢司先生。



総括される私塾ネット関東研修部長田中敏勝先生。

らないで済むということなのです。でも躾のされていないお子さんたちをお預かりしたとしたら、どうでしょうか。聞き辛い言葉遣いを聞かなければならないかもしれません。直さなければならぬことがたくさんあるかもしれません。より高いレベルのお子さんたちを預かる、これは成績ではありません。持っている資質に違いはあるのかもしれませんけれども、偏差値35ぐらいの子も入ってきます。教育意識が高いということを押さえさせて戴き、その上でお預かりすることになれば、お子さんたちの偏差値を75ぐらいにまで上げていきます。入会時に偏差値50いかないお子さんでも偏差値70以上の高校に受からせるなんていうのはザラにあります。そこまでの教育が出来るというのは、親御さんの高い教育意識がなければ実現できません。更にその意識のある親御さんたちに信頼されるということはどういうことなのか。当然、私達教師もそれが出来うる人間でなければならないということです。ルールやマナーはもちろんのこと、子どもたちの躾が出来るということ。躾が出来ることは、『自分の背中を見てもらう』、ということです。それだけの責任と自信を持って指導しなければ、今の子どもたちはこの大人が本物かどうかすぐに見破ってしまいます。ですから先ほどから対応させて戴いております職員たちも、一人ひとり300名くらいの中から選び抜かれた1名ずつです。こういう学舎ですから非常に特色があります。応募者も多いです。東京大学、慶應義塾大学、早稲田大学をはじめとする、トップレベルの大学を出た方がずいぶんお越しになります。でも、一番は何かと言えば、もちろん子どもたちの身になって考えることのできる心の持ち主であること。そして自分自身もレベルアップし

という意識のある者、更にマナーやルールの大切さに気付くことの出来る方、それでなければ私の塾舎では勤まらないということです。やる気を買ってなるべく入り口は広くはしておりますが、研修と題して最低3週間は私の塾舎で学んで戴きます。その上で採用か、不採用にするか、あるいはその前でリタイヤしていくのかは、研修者に考えていただき自ら選択していただきます。そういう形式になっています。ですから、職員は「あらっ、また来たのね、この人、どれだけもつかしら？」と新職員の採用を見守っているのではないかと思います。そのような厳しい競争の中で、勝ち抜いた教師だけが私どもの塾舎で働くことが出来るということです。更に人格教育が出来るという点です。

実は私は最初から学習塾を経営したかったという訳ではありません。一番のスタートは「心の教育」をしたい。これからの日本、どういう風に支えていってくれるのか、子どもたちには大きな力があるに違いない。だからこそ日本を支えていく子どもたちを作りたい。それが私の夢なのです。左端にありますヴォアラのマークですが、○は地球を表しています。下のVはヴォアラのVです。地球をヴォアラで支える。そんな子どもたちを作りたい。その回りにある円は手を繋ぎ合って協力し合う姿です。地球を支えることの出来る、そんな志のある子どもたちを育てたい。それが私の願いです。マークは子どもたちの形にも見えます。子どもたちが空に大きく手を掲げて、自分たちがこの地球を支えていくという夢と希望をもって、未来に突き進むという、そんな意味合いも含めています。一人一人を大切に育むことのできる教師たちと私とが、手を取り合って子どもたちを育てていきたいなと考え

ております。

2頁にいきます。VOILA “ヴォアラ”とは、「ここにこれあり」というフランス語です。エコール・ヴォアラは学習指導を通して、“社会に貢献出来る人間の育成”を目指し、「ヴォアラ」の名のごとく真に「ここに我あり」と、どんな時にもどんなところでも自分の存在（個性）を表現し、自らの力で考え行動し、生き抜いていける子どもたちを育てたい、このような意味が塾名「エコール・ヴォアラ」の中に隠されております。今、子どもたちの自主性がなくなっているのか、それとも親が出過ぎてきているのか。親が決めたレールの上をただ歩くだけの子どもたちがずいぶん増えてきています。エコール・ヴォアラでは、そういう子どもではなく、自ら自分の足で歩く子どもたちを育てていきたいのです。今年卒業した男の子の中に、将来は国連に入って世界の人々を助けて行きたいという考えを持って、法政大学「国際社会」に入学した子がいました。塾舎の卒業生たちは社会に貢献できる業務に携わりたいと、福祉・医療などの世界へと進む子がとても多くあります。これも私の理念の通ずるところかなと思っています。

学習塾を始める前は、「人格教育が出来る」そんな本物の心の教育が出来る方法はないのかなと、ずいぶん悩みました。15年以上も前でしたので、そういった教育にお金を出すという方はまだ少なかった時代です。そこで、学習塾という看板を掲げることによって、子ども達に接して教えることができる方法。つまり私にとって勉強を教えることは一つの手段に過ぎなかったという訳です。ある程度の形になれたのはやはり「会員制」を主張してきたからこそだと思っています。

次、4頁です。「1対1の個人指導」ですが、その基本は、子どもたちと寝食を共にする、夏期体感スクール「軽井沢セミナー」だったり、「芸術に親しむ会」であったりと、色々な行事を行ってきたところにあります。昨今文部科学省でも、学習以外の「ゆとりの教育」を提唱しておりますが、私は15年前からこれらを始めております。その上で一人ひとりの個性を引き出すためには、1対1でぶつかり合うところがどうしても必要であると。そして、正直な心で話せばどんな子どもでも変わります。もしも、1対1の指導でなかったら出来なかつたことがたくさんあったかもしれません。

7頁です。「優先予約受付中」というところ

をご覧ください。「お待たせいたしました。ご紹介優先受付スタートです」とあります。塾舎の全ての子を、どういう風に指導してもう大丈夫という状態になるまでは、次の子を入れません。私が今いる子どものたち心をしっかりと掴みとれるまでは入会を待っていて貰います。「もっと早く入れて欲しいんです。」という切実な願いもあります。でも今お預かりしている子たちをないがしろにしてまで、他のお子さんを入れる訳にはいきません。最長1年待ちというのもありましたが、早ければ3ヶ月ぐらいで順次入会して戴けているかなと思います。ご紹介戴いても、年度の途中ではなかなか入れてあげられないこともあります。これは運営を考えたら厳しい状態ではないかなと思います。この辺は宇都宮市内では一等地です。ですから家賃も高いです。ではたくさん入れたらいいではないかと言われますがそれはいきません。今居る子どもたちが第一優先ですから。でもおかげさまでうちの塾舎の平均月謝は10万を超えてます。この冬、ご兄弟二人の冬期講習だけでお支払い戴いた学費が38万を超えた方もいらっしゃいました。もちろん満足していただいています。何人いて、どのくらいの売上なのか皆様関心のあるところだと思いますが、それは私の体力でできうる限りということでご推測ください。

一昨年の研修会の席で山口先生が「塾の先生にはそのノウハウを教えているの？」とご心配くださいました。「ノウハウ持って逃げられらやうよ」と。でも「大丈夫です。私にしかできませんから」と答えました。自負を持ってこの学習塾の世界に乗り込んできていますから。しかし、皆様これを真似る必要はないかと思います。学習塾にはそれぞれの色があつていいと思うのです。子どもたちにはそれぞれのカラーがあります。皆様の塾には皆様各自の色があると思います。私はこのやり方、方法がやりやすかったというだけです。

ここで教師のことを少し。その子を本当に伸ばすのであれば、私が一番優しく、一番怖い先生であっていいと思っています。塾長先生の一言で子どもたちは即変わってしまいます。でも先生方にはそれぞれ色があります。エコール・ヴォアラが掲げた理念に対しては、何があっても守って戴かなければなりません。最初は形を真似る、その次は少し離れたところから自分の様子を見る。そして自分の形を取ったら、自分でなければ出来ないことをや

りなさいと伝えてあります。最初は何でも聞いてきます。そのうち「それは先生が考えることですよ」と先生方ならではの色を出してもらうようにしています。

昨日もある生徒が作文で苦戦していました。「駄目、これでは。心がない」と書き直させました。「あなたでなければ書けない作文でなければ駄目である」と。教師も生徒もそれぞれのカラーがあります。それを引き出してあげるのが私の役目であると思っています。

さて今日、皆様にこれだけはお伝えしたいと思ったことがあります。それは「情報は発信したところに多く集まる」ということです。私も今日の研修のために市役所に行ったりして皆様にお渡しするための市の資料や情報を集めに走りました。その結果、新しい発見がたくさんあり、こうして皆様にお話をすることができました。そのことにより皆様から多くの情報が返ってくるかもしれません。更に今日皆様にお話しさることで私自身が、初心に帰ることが出来ました。今回鈴木先生に研修会のお話を戴いて、これが一番有難いことであったかと思います。自塾のことですから誰よりも自分が知っていると思っています。しかし、「慣れ」というものは恐ろしいものです。それがこうして初心に帰らせて戴ける場が持てたということは、本当に素晴らしいことだったなと心より感謝しております。

学習塾の団体というのは手の内を明かさないのが実情ではないでしょうか。ですから今日のような会というのは実は驚きでもありました。鈴木先生がお誘いくださいましたこの私塾ネットは、そこが違いますね。自塾の中身を紹介する。オフレコの部分もおありになるでしょうが、貴重な資料を皆様たくさん出してくださいますから。

**只今の質問にお答えします。

学費は1教科36000円からです。東京でも1教科16000円で教えていますよとか、うちはそれで3教科教えていますよとか、そういうお話をよく聞きます。私は主に数学を教えていますが、子どもたちがテキストを終えたときは全問正解です。問題を解いている過程の中で、導入の部分があつたり、考えさせる部分があつたり、ということで、終わったときには「よし、良く出来た」という言葉しかもうありません。より短時間で子どもの成績を上げなければいけないので指導には私のノウハウがぎっしりと詰まっています。およそその

子どもが3教程度受講しています。この金額は昨年の研修会で加藤先生から「貧乏人は受けられないということかい」とお叱りを受けました。いえいえ、私はボランティア精神が強い方です。ですから子ども最優先で自分のスケジュールを作った時期もありました。それを無料で行つきました。そういうやり方の先生もここにいらっしゃるのではないかと思います。テスト前には何とかしてあげたいと思うのは当然ですから。しかし、「ボランティア」というのは自分が歩けてこそ初めて人のために出来ることなのだと私は主人に教えられました。「タダだからいい」と思う心がなかったか?その子どものために誠心誠意本当にやつただろうか?ボランティアではそこまではやれていないのでは。自分の経営がなり立たなくなるようなボランティアをやってはいけない。そして自分の商品価値はきちんと付けなさいと。つまり、商品である授業は無料で配ってはならないということでした。確かにボランティアでは売上どころか生活費も、ここ家の賃貸も払えない。自分の足で歩いて、それを継続するためにはきちんとした商品を出し続けなければいけないのだと。そこで悩んだ末、私はボランティア授業をやめました。色々な子どもを預かりたいと思う塾舎もあるかと思います。でも、うちではこれが大安売りの値段の限界なのです。一人の先生が1時間付いて6000円、1時間半で9000円。町中のマッサージ店、45分4500円とか60分6000円とか、そんな値段になっているのを御存知ですか?美容室もそうですが、人が一人動くということはこの金額で正しいのだと、それが最低ラインであると考えています。一斉指導のときは1時間一人1000円くらいでした。24人いるクラスでしたら先生一人1時間24000円、そして一人あたり何と2.5分の指導で1000円です。では、自分の子どもを入れた時、確実に偏差値を上げることが出来るのは一体どちらでしょうか。

皆様のご案内は1教科週2回になっています。1教科週1回で月に36000円では高く感じますよね。そこで1回は先生が90分付き、もう1回90分は演習日と名付けて来てもらいます。教えたことが本当に定着しているかどうか、テストで点数が取れるかどうか、指導した教師は演習日にプリントを作つて確認するというシステムです。つまり、1教科週2回をセットで9000円。月、4週で36000円です。でも、自習しかさせていないところで学費取つてい

るところたくさんありますよね。プリントだけ渡して、回収して○を付けて、次のときに返す。そういう塾でさえ、1教科1万円というところもありました。それを考えれば私の塾は実に格安であるとさえ思います。

他にも会員制の利点は、生徒と家庭と教師がこれほどに密着しているという点にあります。また私は女性ですから、男の先生には出来ないきめ細かい部分、母親でしか感じられない子どもへの思いや配慮があります。そういう点では実に得したなあと思っています。逆に残念ながら、息子や娘自分で指導することは出来ませんでした。「塾長が、自分の子どもを教えている」という声が聞こえてくるからです。生徒として同じ時間に指導しても、他の子どもから見ると、塾長が自分の子どもだけを教えているように見えてしまうのですね。そこで、息子はまず寮のある中学校に入れました。娘も同じ様に宇都宮を離れて、大学附属高校へと進ませました。だから自分の子を私が指導した時間というのは非常に少なかった。よく「塾長先生の子だから出来るんでしょ」といわれます。でも「私は教えてないからそんなことないよ」と答えています。自分の子どもを教えている間は仕事は出来ません。そこで私は自分の子どもを自塾の先生に預けました。教師を育てる意味でもそれで良かったと思っています。更に二人の子どもたちを慶應義塾大学の附属高校に預け、慶應義塾大学へと進ませたことが、この会員制の成功にも繋がったといえるでしょう。栃木県の中で、慶應義塾や早稲田・桜蔭・共立女子・明治・日本女子大等、偏差値67から74ぐらいまでの高校へ、入れている塾舎はうちがトップです。自分の子どもで実践し成功していますから、他のお子さんも自信を持ってお預かりすることができます。首都圏ハイレベル高校を一人も落とさない、そういうところから「会員制学習塾」が成り立っているのではないかと思っています。でも、最初からレベルの高い子なんていませんよね。困っているから塾に来ています。そして、「1対1で教えてもらえる利点を最高に活かそう。」、そういう思いが子どもにも、親御さんにもあるからこそ、ここを選ばれた訳で、だから高目の学費でもお支払い戴ける。結果ハイレベルの高校に入学できるという訳です。会員には塾のかけもちはお断りしています。ここしかないんだという気持ちで来ていただかないと本気になれないと考えるからです。ここだったら成績が上がるんだ。そ

ういう信念を子どもたちに持たせるためにも塾のかけもちは必然であると考えています。実際小学校のときに下から数えた方が早い子でも、国立宇都宮大学付属中学で何と女子のトップになっています。このような「ヴァラマジック」と呼ばれるほどの指導が出来ますのも、今まで皆様にお話した内容に他なりません。当地で塾舎が続く限り、今後も皆様と学び合い自塾を省みながら共にレベルアップして参りたいと思っています。どうぞこれからもよろしくお願ひいたします。本日は誠にありがとうございました。

広報部より 菅谷先生のパワーには驚かされた。女の先生なのに男の先生以上のところもあったと思う。ただ誰のために、何のためにそこまで指導なさるのか?

学歴ではなく、学習歴が必要であるとか、一流大学を出たからといって幸せな人生を送れるとは限らないとか、色々言われている。「個性の時代」とか、「多様性」の時代とか。確かに学問をすることだけが「幸福」ではないと思う。「成績」が良いことだけが「評価」されるとは限らない。

が、菅谷先生はターゲットを絞り、エリートのためのエリート教育を実行されている。なかなか出来ることではない。真似などは出来ない。ただ、ターゲットをしっかりと絞らなければ、理想の教育は出来ないということは肝に命じておく必要がある。気持ちはあってもなかなか実行は出来ないので。

左寄りの人がいたら、「差別だ」と叫んだことであろう。「差別」ではなく、「区別」だと言っても聞いてくれまい。「区別」 = 「差別」と捉えるのであろうから。しかし、すべて同じなどということはありえないのだから、菅谷先生のやり方は評価されて然るべきである。いや、大いに結構。

ただ、もう少し指導の実際をお話しして戴きたかった。ノウハウといつても誰でも簡単に真似の出来ることではないのだから。

少し疑問に感じたのは、やる気はあっても、能力のない子はいるはず。やってもやっても結果が出ない子だ。私も父の助手として指導していた高校生のときから約40年間指導してきて、この「能力」の問題には難渋させられた。

最後に健康あって初めて子どもたちと接する事が出来るので、ご自愛されたい。不健康的の代表の加藤からのお願いです。

平成16年4月3日午前1時53分 加藤 実

平成15年度 各部局事業・会計報告

渉外部 事業報告

渉外部長 佐藤勇治

学習塾団体の役員の多くの方々が、他団体を含め幾つかの役職を兼任されておられるように、私自身も現在、私塾ネット渉外部長のほかに学習塾関係では、次のような団体の役職を兼任しております。

- (1) 全日本学習塾連絡会議『私塾・私学・企業 教育ネット要覧』編集長
- (2) NPO法人・全国教育ボランティアの会(内閣府認証)事務局長
- (3) 拡大任意団体連絡会 事務局長
- (4) 社団法人・全国学習塾協会 全国学力コンクール副委員長
- (5) 学校教育支援調査会 幹事長補佐

そして、渉外部の主な業務が他団体との交流と情報交換であることを考えますと、現在、私が兼任しております役職が相互に関連しており、特に『教育ネット要覧』(第4集)の発行や拡大任意団体連絡会の開催は学習塾団体の情報交換の場として大いに利用されて来ています。

すべてが、私塾ネットの渉外部長としての活動ではありませんが、相互に関連することを考慮し、平成15年度に私が出席した会合をまとめることで渉外部事業報告と致します。

平成15年(2003)年

- 4月20日(日) 新井達朗先生告別式(私塾ネット名誉会員)
【ラサ中山】(群馬県高崎市寺尾町)
- 4月27日(日) 私塾ネット「全国塾長・職員研修大会」
基調講演:湯口兼司先生、分科会、懇親会
【北とぴあ】(東京都北区王子)
- 4月29日(祝) 香川県小豆島藤原学園実験教
～30日(水) 育研究所・実験学校および
内海町・土庄町・池田町の3町教育委

員会表敬訪問

《NPO法人・全国教育ボランティアの会》【内海町・土庄町・池田町教育委員会】

5月13日(火) 私塾ネット関東 第8回定例会
【八重洲俱楽部】(東京駅、地下街)

5月25日(日) 第14回 すばるの会(社団法人かながわ民間教育協会)
【新横浜国際ホテル】[380名出席]

5月26日(月) 学校教育支援調査会 第7回 勉強会 衆議院議員 下村博文氏、経済産業省 経済政策局 参事官補佐 後藤祐一氏、内閣官房 構造改革特区推進室 参事官補佐 福島伸享氏
【衆議院第二議員会館 第4会議室】

6月8日(日) 社団法人・全国学習塾協会通常総会、懇親会
【主婦会館プラザエフ】(四谷)

6月9日(月) 第1回「u-40」研修会
講師:田中宏道氏
【品川区総合区民会館・きゅりあん】

6月10日(火) 平成15年度(2003)『私塾・私学・企業 教育ネット要覧』
B5版・339頁、3000部(学習塾本部名簿2337塾収録)発行
《全日本学習塾連絡会議》私塾ネット渉外部長 佐藤勇治編集

6月22日(日) 平成15年度 NPO法人・全国教育ボランティアの会 総会
【調布学園】(東京都調布市国領町:本部事務所)

7月2日(水) 第63回 拡大任意団体連絡会連絡会【NSビル13F会議室】[12団体24名出席]

7月7日(月) 私塾ネット関東 第9回 定例総会 ~新年度募集状況と夏期講習募集計画【北とぴあ】(東京都北区王子)

7月13日(日) 塾全協「2004中高入試を考える会」【中野サンプラザ14F「銀河」】(東京都中野区)

7月20日(日) 第1回「いきいきワクワク体験・親子の集い」~お豆腐作りと会食、ハノイの塔の作り方と遊び方、天文教室
主催:NPO法人・全国教育ボランティアの会

後援:文部科学省、調布市、調布市教育委員会、調布市社会福祉協議会 実行委員長 佐藤勇治 【調布市文化会館「たづくり」】[287名参加]

- 9月 3日(水) 第64回 拡大任意団体連絡会
【新宿NSビル13F会議室】[8団体、21名出席]
- 9月 7日(日) 東京私塾協同組合研修会
～都立高校入試に観点別評価を導入【芸術劇場5F中会議室】(池袋)
- 9月 9日(火) 私塾ネット関東第10回 定例会 【八重洲俱楽部】東京駅、地下街)
- 9月17日(水) 第65回(臨時)拡大任意団体連絡会 ～ブリティッシュ・コロンビア大学アジア研究所助教授 ジュリアン・ディルケス氏と学習塾団体代表者との懇談会【中央大学駿河台記念館3F305教室】
- 9月28日(日) 社団法人・全国学習塾協会「塾の日フェスティバル2003」～式典、研修会(京都大学経済研究所教授 西村和雄氏)、懇親会【福岡国際会議場】福岡市)
- 10月 5日(日) 第4回 京葉虹の会 研修会
～「平成16年度首都圏入試を展望する」、懇親会【ニューオークラ】(江戸川区西小岩)
- 10月12日(日) 第2回 「いきいきワクワク体験・親子の集い」
～べっ甲あめ作り、パンパイプ作り、魔方陣工作とゲーム
主催：NPO法人・全国教育ボランティアの会
後援：文部科学省、松本市教育委員会、塩尻市教育委員会、豊科市教育委員会
実行委員長：松本紀行先生【なんなん広場】(長野県松本市) [176名参加]
- 10月19日(日) 私塾ネット中部 研修会、懇親会【浅間温泉・別亭「一花」(いっか)】(長野県松本市)
- 10月26日(日) 第3回 「いきいきワクワク体験・親子の集い」～チーズケーキ作りと会食、ハノイの塔を作って遊ぼう
主催：NPO法人・全国教育ボランティアの会
後援：文部科学省、善通寺市教育委員会、三野町教育委員会、詫間町教育委員会、仁尾町教育委員会、豊中町教育委員会
実行委員長：湯口兼司先生
詫間町教育委員会、仁尾町教育委員会、豊中町教育委員会 【インパルミの】(香川県三豊郡三野町) [166名出席]
- 11月 2日(土) 関西私塾教育連盟 設立40周年記念研修大会、式典、懇親会
【ホテルアヴィーナ大阪】 (200名参加)
- 11月 3日(祝) 第66回 拡大任意団体連絡会
【12団体、19名出席】午前中
【かんぽヘルスプラザ東京 4F】 (池袋)
- 第29回 塾全協 研修大会
～「教育改革の実態を検証する」懇親会
基調講演：「世界に逆行する日本の教育」
和田秀樹氏
【かんぽヘルスプラザ東京 4F】 (池袋)
- 11月 9日(日) 私塾ネット中国エリア主催
研修会、忘年会(佐藤欠席)
～「塾を斬る」～WE WILL REVIVE
【宮島グランドホテル】 (広島市)
- 12月 6日(土) 日本女子大学生涯学習総合センター公開イベント「いきいきワクワク体験の集い」～ミニプラネタリウム作り、空力翼艇作り、天文教室
講師：NPO法人・全国教育ボランティアの会田中敏勝、西畠正夫、佐藤勇治
【日本女子大学 高層棟「百年館」 4F】
- 12月 7日(日) 私塾9団体 合同忘年会
主催：東京私塾協同組合
第14回 全国研修大会
講師：森上展安(森上教育研究所代表)
【ホテルメトロポリタン3F「富士】
(池袋)
- 12月11日(日)「特定継続的役務」の規制に関する勉強会 参加団体：(社)かながわ民間教育協会、(社)全国学習塾協会、私塾ネット、塾全協(世話人団体)
講師：経済産業省 商務政策局サービス産業課
課長補佐 久保隆治氏
【崎陽軒本店 6F 会議室】(神奈川県横浜市)
- 12月21日(日) 第4回「いきいきワクワク体験・親子の集い」～一橋大学 大学院教授 中嶋浩一先生「楽しい天文教室」、ミニプラネタリウム作り、空力翼艇を作って飛ばそう
主催：NPO法人・全国教育ボランティアの会
後援：文部科学省
実行委員長：田中敏勝【With You さいたま】さいたま市 [38名参加]

平成16年(2004)年

1月12日(祝)「塾に役立つ情報展」

主催：全国学習塾協同組合

【新宿NSビル B1F】

「塾団体合同新年会」主催：塾全協
【新宿ワシントンホテル】

私塾ネット関東 臨時研修大会
【新宿NSビル 13F 会議室】

1月17日(土) 第2回 調布市「いきいきわくわく市民のつどい」～体験コーナー「空力翼艇、ハノイの塔、紙ヒコーキ提供」
【調布市文化会館「たづくり】
[NPO法人 全国教育ボランティアの会他32団体、221名参加]

2月1日(日) 私塾ネット関東 研修会、新年会
塾訪問 (栃木県宇都宮市「エコールヴォアラ」)

～(1) エコールヴォアラの教育
(2) 碇の数学講座
【エコールヴォアラ グランシャリオ】
(栃木県宇都宮市)

2月26日(木) 社団法人・全国学習塾協会
関東支部・東京都地区会員協議会
～東京都地区活性化に向けて
【豊島区立勤労福祉会館 第3会議室】

3月5日(金) 第3回 全国縦断学力コンクール問題用紙一式発送
主催：社団法人・全国学習塾協会
【社団目白事務所】[80塾、9000名参加]

3月9日(火) 私塾ネット関東 定例会
～私塾ネット「全国塾長・職員研修大会」4/25(日)について 【品川区立総合区民会館「きゅりあん」4F 研修室】

3月16日(火) 第67回 拡大任意団体連絡会
～国政報告：下村博文衆議院議員
～講演：「子ども居場所づくりについて」文部科学省生涯政策局子どもの居場所づくり推進室室長 日向信和氏～『教育ネット要覧』第4集の発行について、各団体情報交換
【衆議院第二議員会館 第4会議室】[14団体、23名出席]

3月22日(月) 学校教育支援調査会 第8回
勉強会
衆議院議員 下村博文氏、
文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課長 関 靖直氏、
文部科学省 初等中等教育企画課 教育制度改革室室長 塩見みづ枝氏、
経済産業省 経済産業政策局 産業構造課 課長補佐 鈴木英敬氏 (構造改革特区規制改革等担当)
【衆議院第二議員会館 第2会議室】

平成15年度「自然体験・社会体験学習啓発促進マニュアル」(「いきいきワクワク体験・親子の集い」) A4版・153頁、1000部
発行 《NPO法人・全国教育ボランティアの会》編集責任者：佐藤勇治
3月27日(日)『どうする「理数力」崩壊』
出版記念祝賀会(PHP研究所出版)
著者：英進館館長 筒井勝美氏
京都大学教授 西村和雄氏
東京大学助教授 松田良一氏
【東京銀座キャピタルホテル 新館】

4月10日(土) 朝日塾中学校開校式、平成16年度入学式【朝日塾中学校 体育館】
(岡山県御津郡御津町紙工2590)

厚生部 事業報告

厚生部長 佐藤勇治

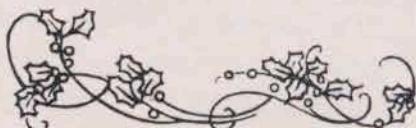
平成15年(2003)年

4月20日(日) 新井達朗先生(私塾ネット名誉会員) 葬儀・告別式 4/17日、永眠。享年76歳。群馬県高崎市寺尾町
【ラサ中山】私塾ネットより山口恭弘理事長、村社啓介先生(向学館)、佐藤勇治厚生部長の3名が出席

11月7日(金) 石田治正先生 お見舞い(交通事故)【松戸市民病院】谷村志厚先生、田中敏勝先生、加藤 実先生、佐藤勇治厚生部長の4名で伺う

平成16年(2004)年

3月23日(火) 落合清晃先生 お見舞い【東京女子医大】田中敏勝先生、加藤 実先生、佐藤勇治厚生部長の3名で伺う



渉外部・厚生部会計報告

渉外・厚生部長 佐藤勇治

広報部 事業報告

広報部長 加藤 実

(1) 渉外部・厚生部収支報告 (私塾ネットセンター)

①【収入の部】

私塾ネットセンター予算 100,000円

②【支出の部】

(I) 厚生部	支出合計	0円
(II) 渉外部		
03.7.13 邮送料2件	1,940円	
04.1.12 研修会会費	3,000円	
04.1.12 学習塾団体		
04.3.25 合同新年会会費	10,000円	
「アバームで綴る私塾ネットの活動」		
A4版、180冊分印刷費	51,300円	
合計金額	66,240円	

③【収支の部】

収入	支出	残高
100,000円	66,240円	33,740円

(2) 渉外部・厚生部収支報告 (私塾ネット関東)

①【収入の部】

私塾ネットセ関東予算 50,000円

②【支出の部】

厚生部・渉外部支出合計 0円

③【収支の部】

収入	支出	予算金額
50,000円	0円	50,000円

私塾ネット広報第4号の発行

平成15年4月27日

- 第62回拡大任意団体連絡会報告 (加藤 実)
 - 平成14年度広報部会計報告 (加藤 実)
 - 平成14年度広報部事業報告 (追加分、加藤 実)
 - 平成14年度渉外部事業報告 (佐藤勇治先生)
 - 平成14年度厚生部事業報告 (佐藤勇治先生)
 - 平成14年度渉外部・厚生部・会計報告 (佐藤勇治先生)
 - 私見と御願い (佐藤勇治先生)
 - 私塾ネット3月・4月の活動 (佐藤勇治)
 - 編集後記 (加藤 実)
- 以上A4版12頁。

私塾ネット広報第5号の発行

平成15年7月15日

- 私塾ネット全国塾長・職員研修大会報告 (加藤 実)
- 荒川区公立小中学校「学習到達度調査」紹介 (加藤 実)
- 私塾ネット関東総会報告 (加藤 実)
- 私塾ネット代表者会議報告 (加藤 実)
- 戦国武将 新井達郎先生ご逝去 (佐藤勇治先生)
- 編集後記 (加藤 実)

以上A4版28頁

限られた予算の中で、良質の広報をどうやって発行し続けるか。佐藤勇治先生・西畠正夫先生の絶大なるご支援とご協力により、2回40頁の広報を発行することができました。この場をお借りして両先生に感謝申し上げます。ありがとうございました。

私が藤原最後の仕事として広報6号の発行を予定しております。また、佐藤勇治先生・西畠正夫先生のご支援・ご協力を御願いしたいと存じます。

各部局の決算報告・事業報告と広島研修の詳細報告を予定しております。各事業部部長先生、原稿を広報部まで御願いします。

元全塾連時代には160万の広報予算でスタート。平成5年度のことです。たっぷりの予算がありましたので、写真の解像度にこだ

わり、頁数を気にせず、戴いた原稿すべてと、詳細報告を載せることができました。また、予算内であれば、自由に動いて取材活動してよろしいとのことで、私が直接出向き、原稿を広報部自身で作成できるようになりました。それまではそれぞれ担当の先生に原稿を依頼するという方法が一般的でした。それゆえ、一部の会員から「広報部は原稿の取りまとめ屋か」という批判を受けたりもしました。そういう点で言えば、広報部自らが原稿を起すということは画期的なことでした。しかし、会員が減り収入が減少していく中、120万に減額されましたが、それでも取材活動も十分出来、年4回100頁以上の良質な広報を発行することができました。

新しい組織になって予算が30万と一気にダウソ。良質な広報を発行するためには単価最低でも6000円は必要な訳です。これは印刷費だけです。連絡費や通信費などは別ですので、今までと同じ良質な広報を発行し続けることは、ほとんど不可能に思われました。それでも発行できましたのは、印刷・製本を西畠先生のところでほとんど実費で担当してくださったからです。どのような記事を載せるかの選定や写真提供、キャプション作成、原稿の校正などは佐藤勇治先生がしてくださいました。私は原稿を叩くだけで済んだわけです。

が、これ以上のご迷惑をおかけすることは出来ません。新しい体制になったわけですから、広報も新しい形を取り、若い方が担当されることを望みます。

パソコンの専門家が私塾ネットにはたくさんいらっしゃるわけですから、文書作成・編集・印刷・製本を分担して作業すればかなり安く出来るはずです。写真もデジカメで簡単に取り込めますし、修正も容易なはずですから。

以上簡単ではありますが、広報部平成15年度の活動報告および思うところを申し述べました。

ありがとうございました。
平成16年1月14日午後11時13分 加藤 実
平成16年4月5日一部追加・修正。

広報部 会計報告

広報部長 加藤 実

◎予算 24万円

◎支出

印刷・編集費	88800円
取材費	59120円
郵送・連絡費	4000円
合計	151920円
残高	88080円

(広報6号発行予算)

ネット管理部 事業報告

ネット管理部長 石川維雪

15年度のネット管理部の活動は、以下の通りです。

- (1) 私塾ネットホームページの維持管理
- (2) 私塾ネットメーリングリストの維持管理

15年度は担当者がいろいろな仕事を負いすぎたため、基本的な活動しかできませんでしたので、16年度はこれを改善するため、数人の会員の方にお手伝いいただき、役割分担を行いたいと思っています。

- ・ホームページの管理担当
 - ・メーリングリストの管理担当
 - ・情報コンテンツ発信の担当
 - ・新しいサービスの開発担当
- などを予定し、すでに担当予定者に内諾をいただいている。

エリア交流部事業報告

エリア交流部は、エリアを超えて活動する会員を助ける目的で活動しています。

15年度は以下の3回の活動を行いました。

- ・エリア中部 研修会参加
(関東から3名の手配)
- ・エリア中国 研修会参加
(全9名の手配)
- ・エリア東北 進学相談会参加

(1名の手配)

編集後記

上記研修会等への参加者を増やすための活動や、人員の割り振りなどを行いました。

また、上記のエリア交流部が手配した参加者13名に対して各回1名1万円程度の補助を支給しました。
以上です。

研修部 事業報告

研修部長 鈴木正之

センター研修部は平成15年4月27日(日)午後2時から全国塾長・職員研修大会「私塾と私学の教育革命」を実施致しました。

基調講演は私塾ネット四国代表湯口兼司先生の『塾長・職員が元気になる話』。

その後 A高校受験数学～J中学受験算数の10の分科会に分かれて討論を行いました。(詳細内容につきましては広報5号をご覧ください。)

今後も塾に役立つ研修を企画実施していきたいと思います。

今日はとてもいいお天気でした。暑いくらいです。NECキャンピー、全く使わないので売ろうと思ったのですが、古過ぎて買ってくれません。古いといっても二階寝室のクーラーよりはずっと新しい。クーラーはもう26年も故障せずに動いています。二階の冷蔵庫にいたっては34年間も働いています。一度だけ修理しましたが、パソコンは確かに便利ですが、アメリカのものですから、「物を大事にする」という感覚がない。どんどん棄てて新しいものに買い換えていく。資源の乏しい日本向きではないですね。便利ではありますが、なくても困らないといえば困らない。携帯と同じようなものです。あればあったで便利ですが、なくてもたいして不便ではない。人間一度味をしめると、もうその世界から足を洗えない。「幸せ」とは何か。もう一度よく考えてみたい。物に囲まれているのが幸福なのかと。

2002年に改定されたばかりだというのに、削除された項目が復活するという。それまで「最高基準」とされてきた学習指導要領を「最低基準」へと変換、それに応じて「個に応じた指導に関する指導資料」を公刊した。この資料は「発展的な学習」と「補充的な学習」の二つで構成されいる。削除項目はこの「発展的な学習」の中で復活する。

さて、先生方はどのようにお考えですか？私は非常に問題があると考えています。通学する学校、指導する教師によって学習内容が大きく違ってくるのです。全国どこでも同じような教育が受けられる。それこそが公教育が行う「義務教育」ではなかったのか。「個性」だの「多様化」などといってきた結果、変な方向に行ってしまっている。公教育の行う義務教育は一律でいいのだ。個性ある教育は私学と私塾に任せておけばよいのだ。

さて、私の最後の広報です。全塾連時代から11年、私塾ネットで2期4年やらせて戴きました。書くことしか皆さんのお役にたてない私は。それなりに頑張ってやらせて戴きました。今後は若い方に若い方の感覚で広報を発行していただきたい。

11年間の長きにわたり、ご愛読していただいた先生方、ありがとうございました。今後は私的広報メール「加藤メール」で頑張ります。今後ともよろしく御願いします。

平成16年4月13日午前1時17分 加藤 実

